
CaoOPC 特別チュートリアル

2007 年 12 月 12 日 更新

DENSO WAVE Inc.

[内容]

1. CaoOPCConfig の設定
2. CaoOPC を使用した市販 OPC クライアントツールでの接続
3. CaoOPC を使用した市販ソフト RSView32 での接続

1. CaoOPCConfig の設定

1. スタートメニューの「全てのプログラム」→「ORiN2」→「CAOOPC」→「CaoOPCConfig」を起動してください。
2. メニューバーの「Edit」→「Add Controller...」を選択します。



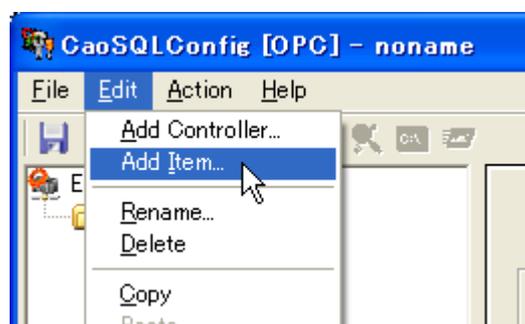
3. コントローラ名を<任意の文字列>で設定します。(数値のみ, ¥, \$, #, :, ! は使用できません.)
例 : "RC1"
4. 「Controller」タブ中の「CaoController」にコントローラ情報を設定します。

Controller Name : <任意文字列(空可)> 3 で設定したものが自動で設定されます.
Provider Name : CaoProv.DENSO.NetwoRC
Machine Name : <空>
Option : Conn=eth:<IP アドレス> 例:"Conn=eth:133.192.232.235"

その他、詳細に関しては「CaoOPC ユーザーズガイド」を参照ください。

- メニューバーの「Edit」→「Add Item...」を選択します。

(！) 手順 5.~7 までは設定しなくても、OPC クライアントツールで動的にアイテムにアクセスすることが出来ます。



- アイテム名を<任意の文字列>で設定します。(数値のみ、¥, \$, #, :, ! は使用できません。)
例：“Item1”

- 「Item」タブ中の「CaoVariable」に Item 情報を設定します。

Variable Name : <任意文字列(プロバイダによる)> 6 で設定したものがデフォルト。
Option : <空>
Class : “Controller Class”
Object Name : <空>

その他、詳細に関しては「CaoOPC ユーザーズガイド」を参照ください。

- 任意のファイル名で設定を保存して終了します。

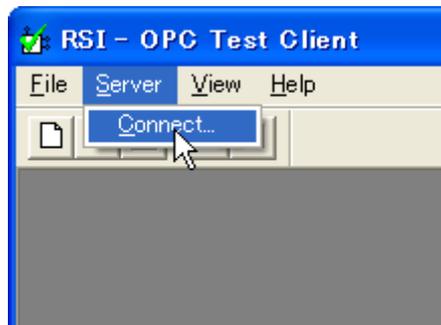
2. CaoOPC を使用した市販 OPC クライアントツールでの接続

市販されている OPC クライアントツール上で CaoOPC をサーバとして使用し、CaoOPCConfig で設定した各種コントローラ、アイテムにアクセスする手順を紹介します。

今回、市販 OPC クライアントツールに「Rockwell 社の OPC Test Client」を用います。

「OPC Test Client」の詳細につきましては、そちらのマニュアルを参照してください。

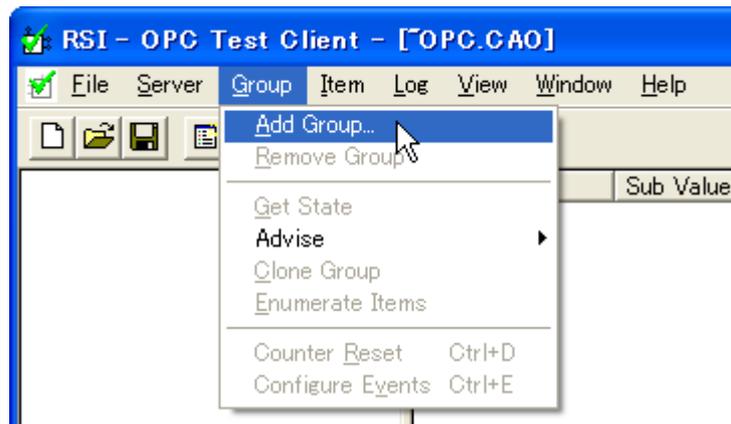
1. 「OPC Test Client」を起動してください。
2. 起動後、メニューから「Server」→「Connect...」を選択してください。



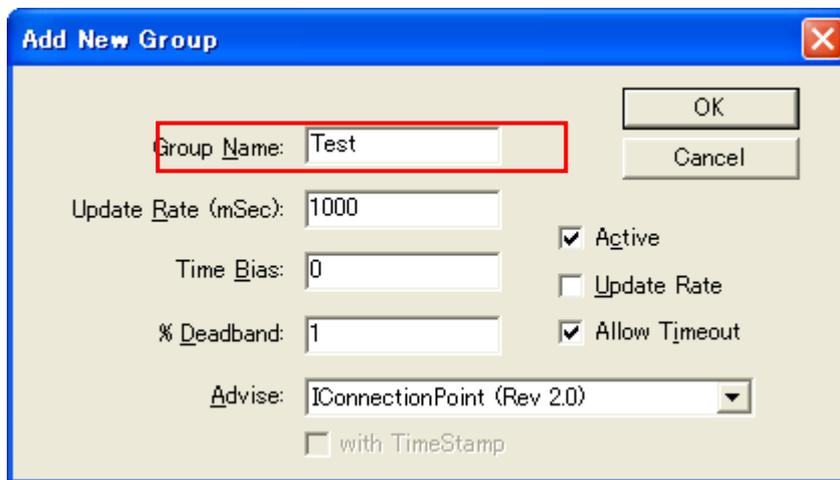
3. 「Select an OPC Client」画面が表示されます。「Located Servers」の一覧から「OPC.CAO」を選択してください。



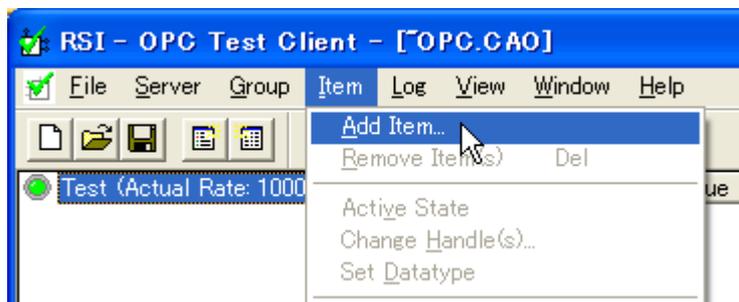
4. “OPC.CAO”サーバで「OPC Test Client」が開いたので、次に「Add Group...」をメニューより選択します。



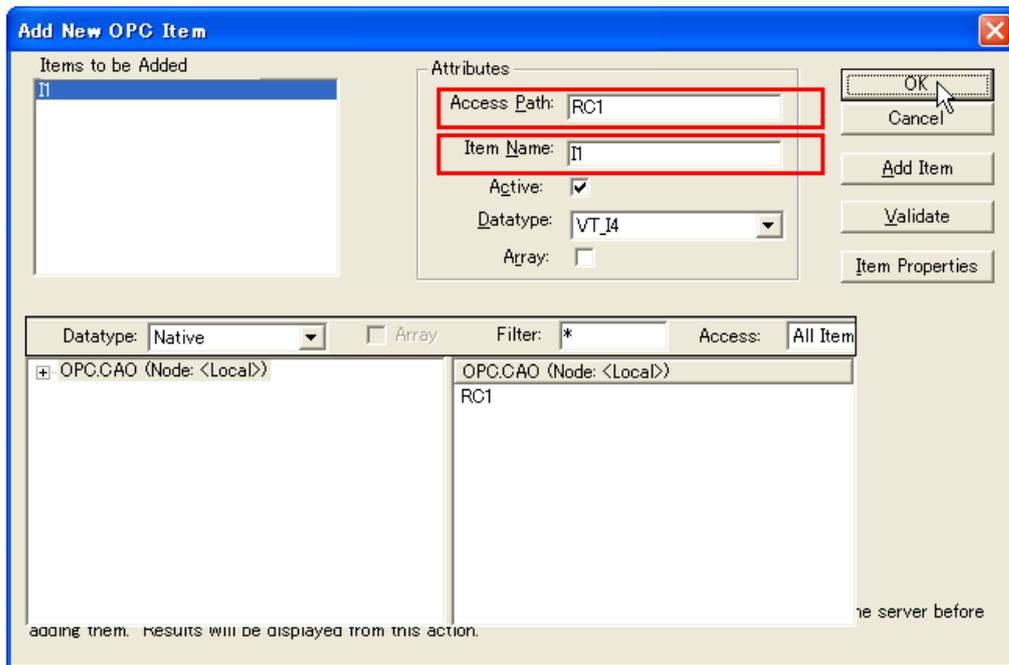
5. 「Add New Group」画面が表示されます。「Group Name」に”Test”を設定します。その他の設定については、OPC クライアントツールのマニュアルを参照してください。



6. 次に追加した”Test”グループにアイテムを追加します。メニューから「Item」→「Add Item...」を選択します。

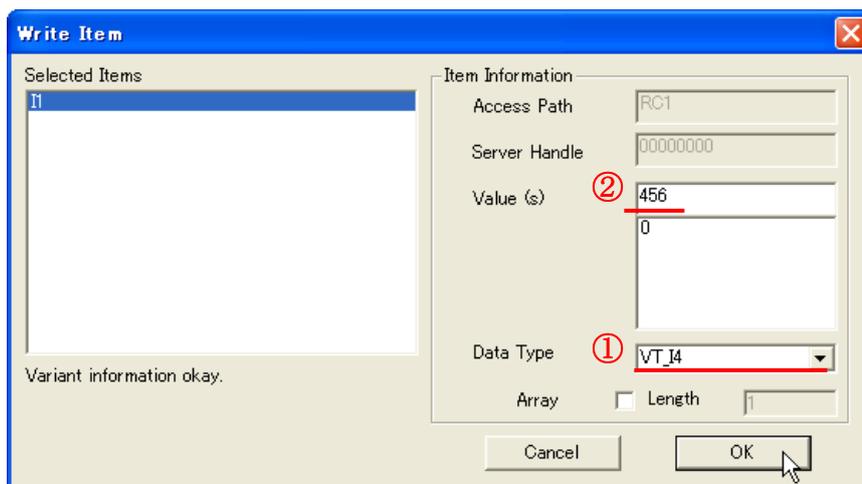


7. 「Add New Item」画面が表示されます。「Access Path」に”1.CaoOPCConfig の設定”で追加したコントローラがこれにあたりますので、”RC1”を設定してください。「Item Name」にアクセスするアイテムを指定します。ここでは”I1”と設定します。

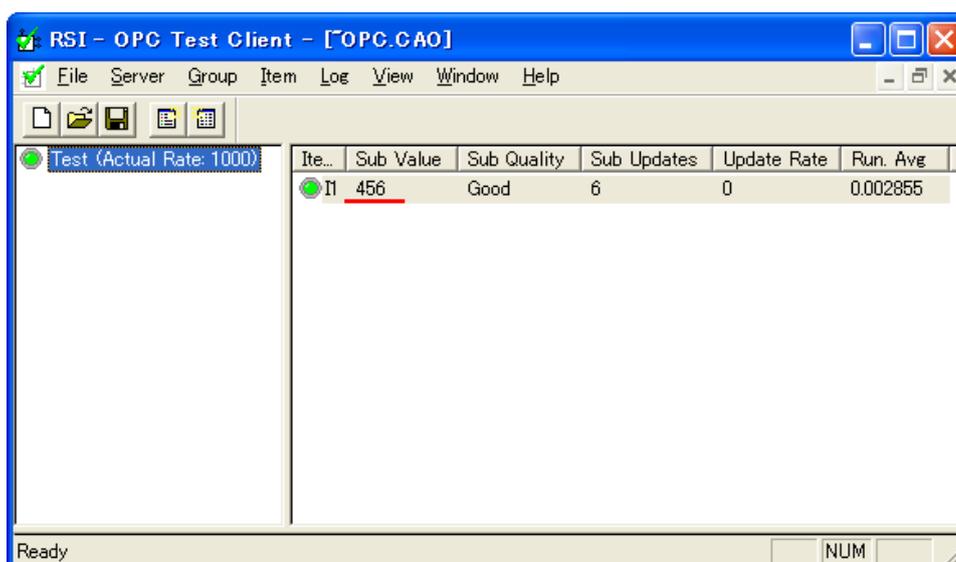


「OK」を押して登録完了です。

8. アイテムの登録が済んだら、「OPC Test Client」に「I1」が追加されていることを確認してください。さらに、そのアイテムが「1.CaoOPCConfig の設定」で設定したコントローラ「RC1」のアイテム「Item1」の値が取得できていることを確認してください。
9. 「I1」を選択して、メニューの「Item」→「Sync Write...」を選択してください。
10. 「Write Item」画面が表示されます。ここで、「Data Type」に「VT_I4」を設定してから、「Value」を「456」と設定してください。(設定の順番に気をつけてください。①→②)



11. 「OK」ボタンを押すと、先ほどのコントローラ「RC1」のアイテム「Item1」が「456」に値が書き込まれていることを確認してください。

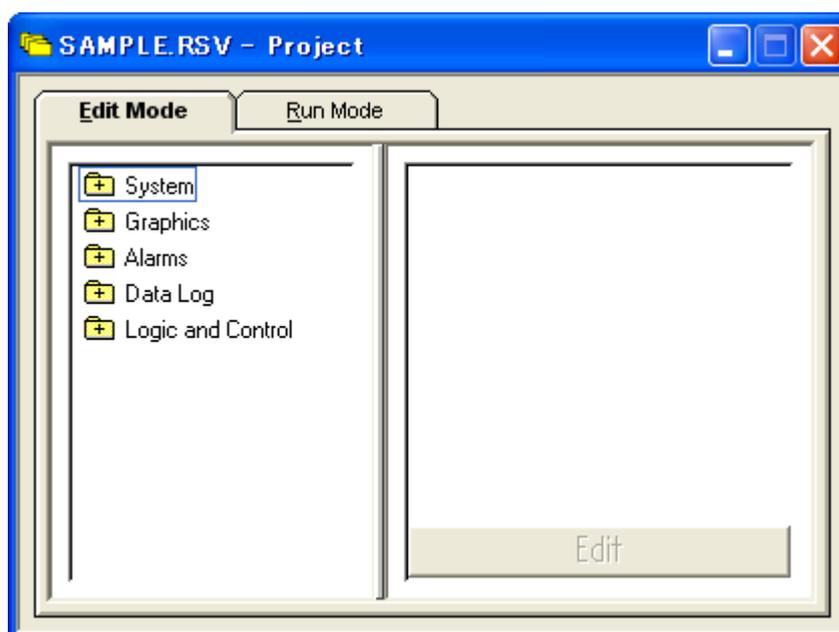


3. CaoOPC を使用した市販ソフト RSView32 での接続

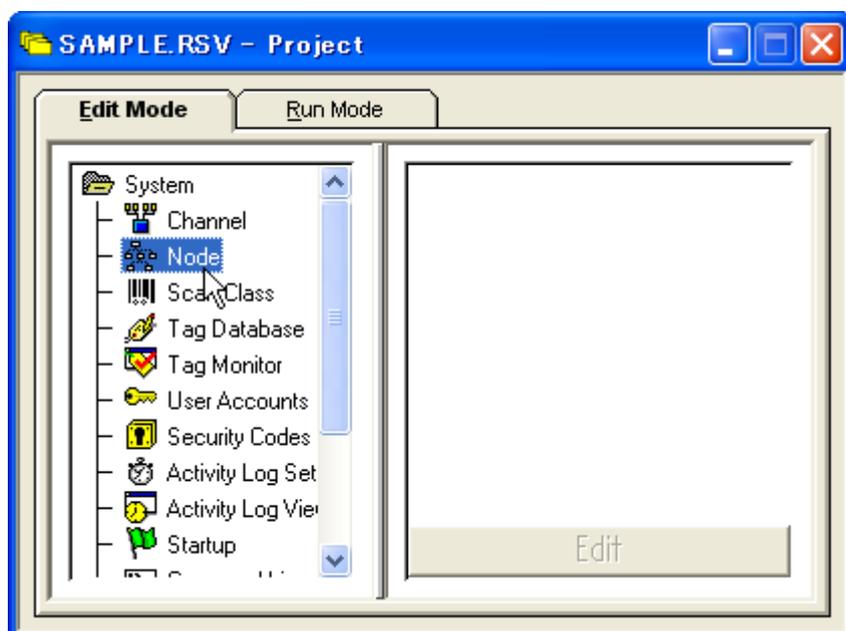
市販されている RSView32 上で CaoOPC をサーバとして使用し、CaoOPCConfig で設定した各種コントローラ、アイテムにアクセスする手順を紹介します。

「Rockwell 社の RSView32」の詳細につきましては、そちらのマニュアルを参照してください。

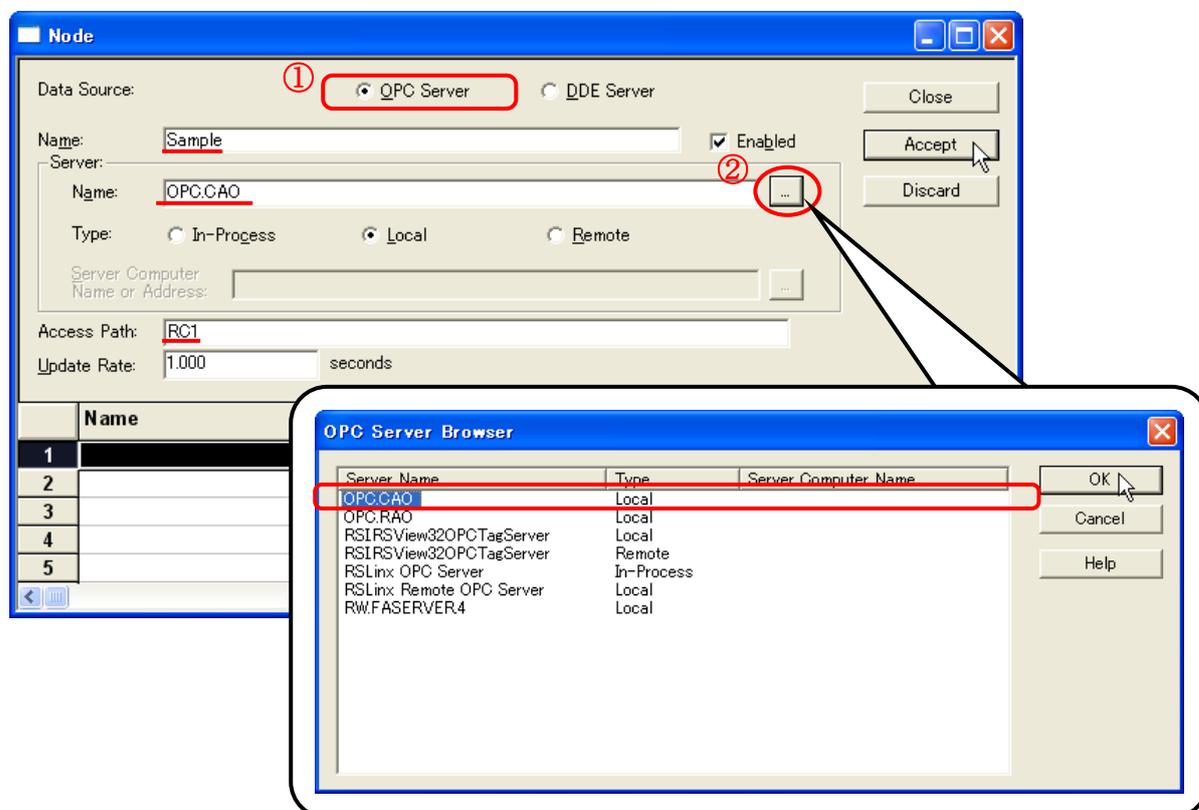
1. 「RSView32」を起動してください。
2. 起動後、メニューから「File」→「New...」を選択し、プロジェクト名を”sample”として新規にプロジェクトを作成します。
3. 「SAMPLE.rsv - Project」画面が表示されます。



4. 「System」をダブルクリックして開き、「Node」を選択します。

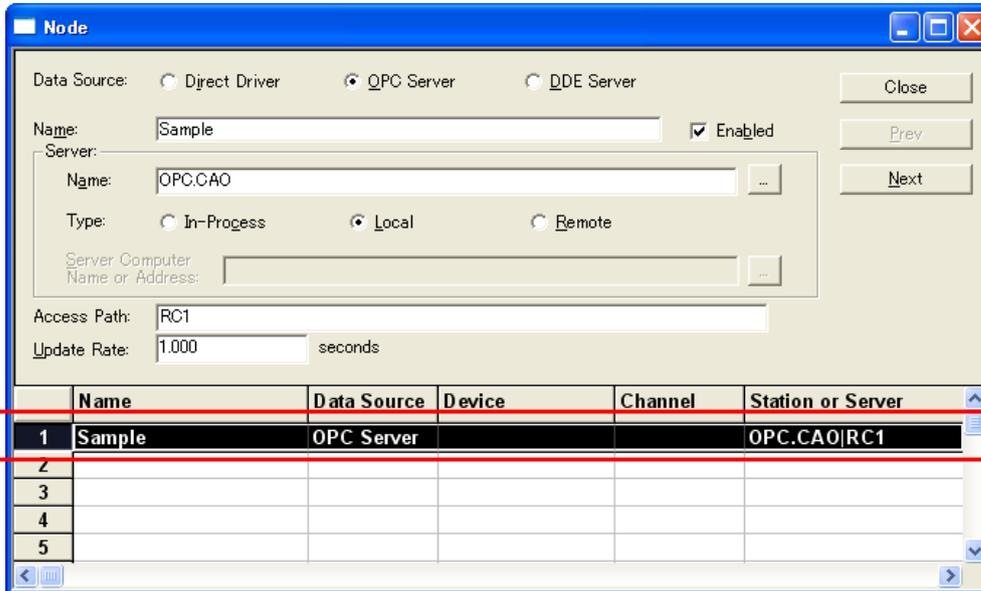


5. 「Node」をダブルクリックすると「Node」ウィンドウが表示されます。
「Data Source」は「OPC Server」を選択し、Node 名を入力します。

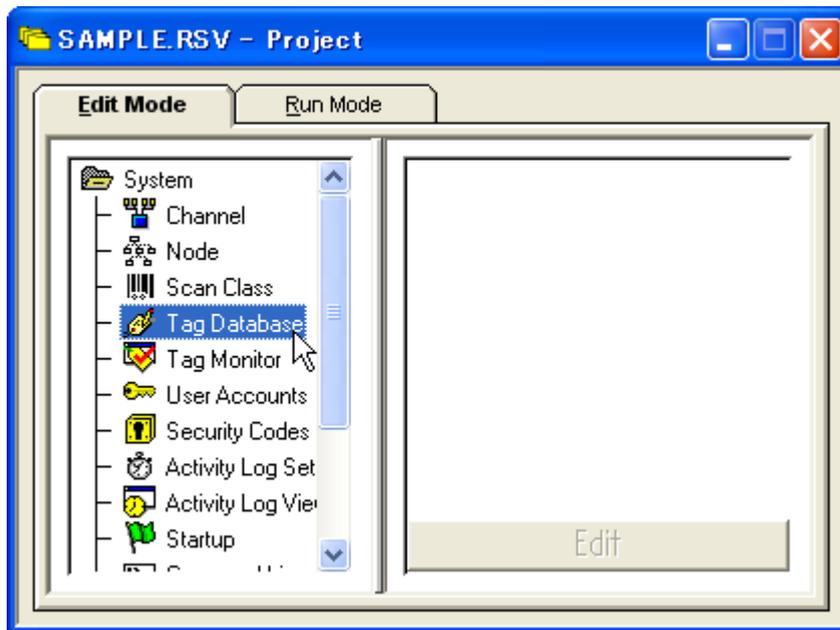


「Server」の「Name」横の「...」をクリックすることで OPC Server を設定することができます。

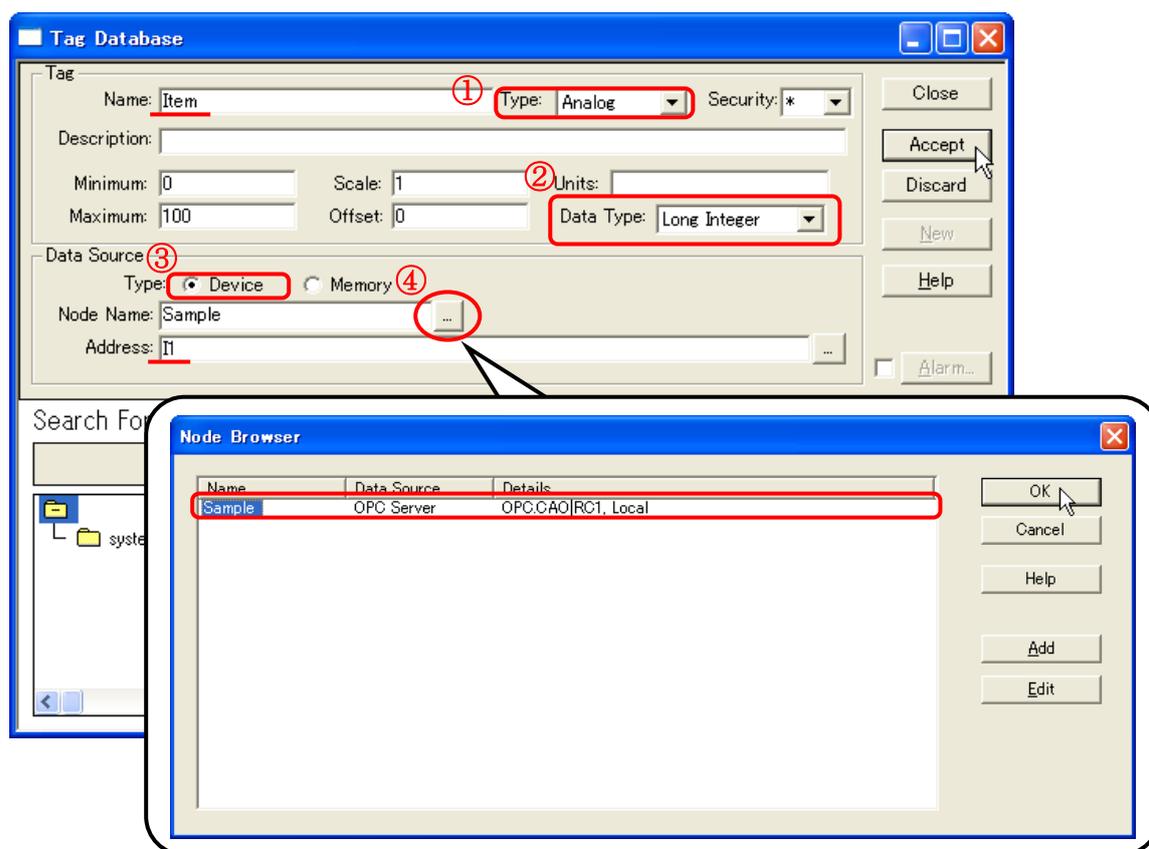
設定が完了したら「Accept」をクリックし、「Close」します。下図は「Accept」後の画面です。



- 次に、3 に示した画面より「Tag Database」をダブルクリックします。

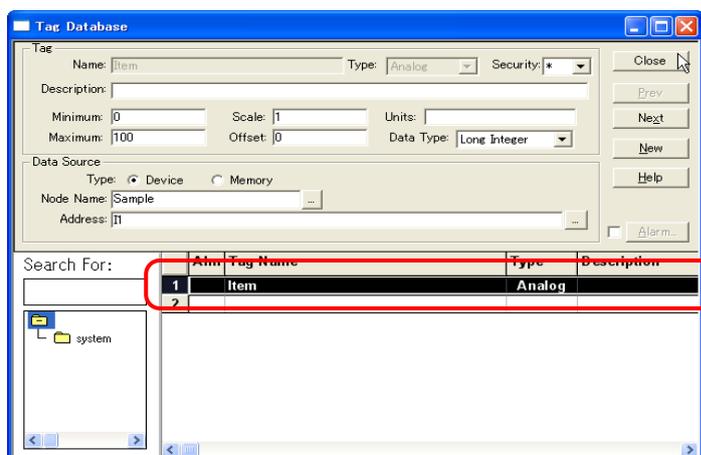


- 「Tag Database」ウィンドウが表示されるので、「Tag」名を入力し、「Type」を「Analog」に選択します。「Type」指定後は「Data Type」を指定します。（今回は接続先デバイスの変数の型が「Integer」なので「Long Integer」を選択）

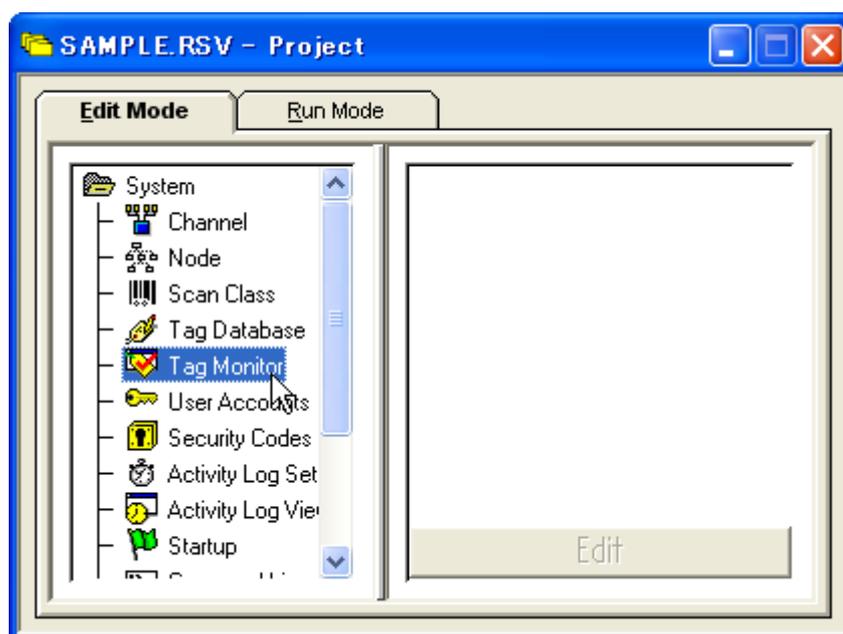


次に「Data Source」の「Type」を”Device”と選択し、「Node Name」横の「...」ボタンをクリックします。「Node Browser」ウィンドウが表示されたら、先に追加した Node 一覧が表示されますので、追加した Node を選択します。最後に、「Address」に CaoOPCConfig で設定したアイテムの「Variable Name」を入力します。

8. 設定後「Accept」をクリックすると、下に Tag が追加されることを確認したら、「Close」をクリックします。



9. 次に、3 に示した画面より「Tag Monitor」をダブルクリックします。



10. 「Untitled - Tag Monitor」ウィンドウが表示されましたら、「Tag Name」にカーソルを合わせて「Item」を入力します。正常に接続されている状態でしたら数秒待つと、CaoOPCConfig で設定したデバイスの変数の値が表示されます。



	?	Tag Name	Value	State	Description
1	Y	Item		123 valid	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

今回、紹介した例は「Tag」のデータをモニタするのみでしたが、「Graphic」等を使用して「Tag」のデータを使用することもできます。詳細は RSView32 のマニュアルを参照してください。